

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第44週 (10/28-11/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		44週	43週	42週	41週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	10/28-11/3	10/21-10/27	10/14-10/20	10/7-10/13	10/21-10/27	
			44週	43週	42週	41週	43週	
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	3 0.17	4 0.22	8 0.44	40 0.30	
	咽頭結膜熱	↓	7 0.39	12 0.67	0 0.00	1 0.06	54 0.40	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28 1.56	32 1.78	26 1.44	19 1.06	259 1.92	
	感染性胃腸炎		42 2.33	54 3.00	50 2.78	45 2.50	279 2.07	
	水痘	○	11 0.61	1 0.06	2 0.11	0 0.00	25 0.19	
	手足口病		29 1.61	23 1.28	30 1.67	28 1.56	208 1.54	
	伝染性紅斑		9 0.50	8 0.44	4 0.22	9 0.50	61 0.45	
	突発性発しん		6 0.33	7 0.39	11 0.61	9 0.50	40 0.30	
	ヘルパンギーナ		10 0.56	10 0.56	5 0.28	9 0.50	33 0.24	
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.11	1 0.06	1 0.06	13 0.10	
	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	27 0.96	23 0.82	8 0.29	10 0.37	168 0.78
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		3 0.60	1 0.20	1 0.20	7 1.40	15 0.43	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	急性弛緩性麻痺	女性	10歳代	急性の弛緩性の運動麻痺症状の継続
腸管出血性大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	水痘(入院例)	男性	10歳未満	臨床診断
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	40歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認等	百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
	男性	40歳代		-	-	-	-

・第44週は、結核1件(139)、腸管出血性大腸菌感染症1件(17)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(15)、急性弛緩性麻痺1件(1)、水痘(入院例)1件(5)、百日咳1件(129)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第44週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より減少し0.39となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

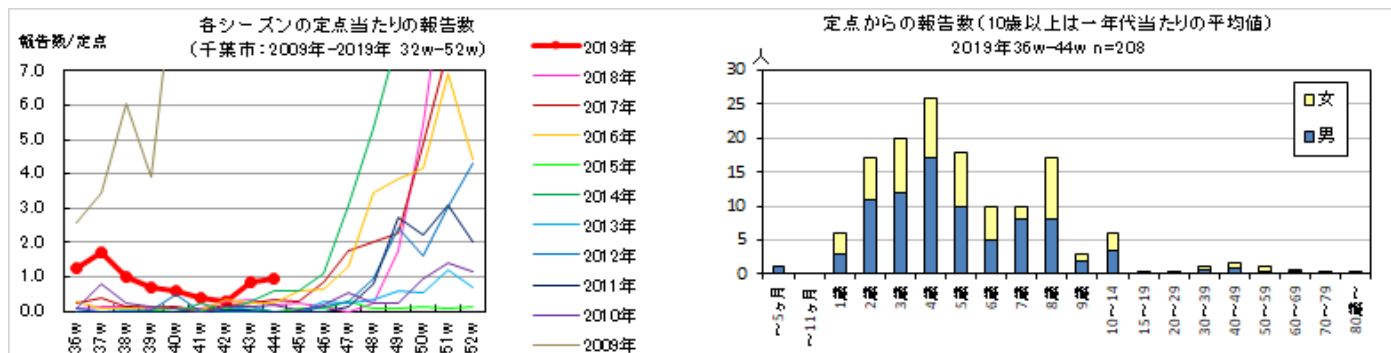
＜水痘＞前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

＜インフルエンザ＞前週より増加し0.96となった。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多。

■ トピック ■

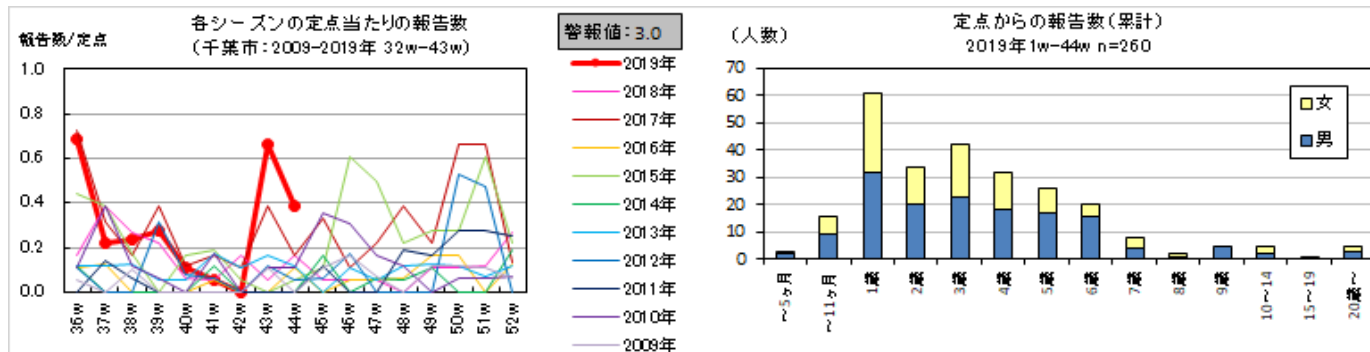
<インフルエンザ>

全国レベルの第43週の定点当たりの報告数は0.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、北海道の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.78で、全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第44週は前週より増加し0.96となり、過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多のままととなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.25/定点)で最多で、同区の3歳、4歳、6歳及び8歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第44週までの累積報告数は208件で、性別では男性が55.8%(116名)、女性が44.2%(92名)となっており、年齢階級別の一年代当たりでは4歳(12.3%:26名)、3歳(9.6%:20名)、5歳(8.7%:18名)の順で多くなっており、20歳未満は全体の76.4%、10歳未満は全体の61.5%となっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第43週の定点当たりの報告数は0.39となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では佐賀県、沖縄県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.40で、全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第44週は前週より減少し0.39となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままととなっています。区別の発生状況は、花見川区(2.0/定点)で最多で、同区の0-5か月、1歳、2歳及び3歳で発生報告がありました。2019年第1週から第44週までの累積報告数は260件で、性別では男性が58.5%(152名)、女性が41.5%(108名)となっており、年齢階級別では1歳(23.5%:61名)、3歳(16.2%:42名)、2歳(13.1%:34名)の順で多くなっています。



<水痘>

全国レベルの第43週の定点当たりの報告数は0.29で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では長崎県、山形県、石川県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.19で、全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第44週は、前週より増加して0.61となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第44週までの累積報告数は255件で、性別では男性が54.5%(139名)、女性が45.5%(116名)となっており、年齢階級別では7歳(14.9%:38名)、6歳(14.5%:37名)、5歳(13.3%:34名)の順で多くなっています。

